トランスコーダの設定

Media Resource Manager（MRM; メディア リソース マネージャ）は、Cisco Unified CallManager クラスタ内のトランスコーダのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco Unified CallManager は、Media Termination Point（MTP; メディア ターミネーション ポイント）とトランスコーダの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコーダの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco Unified CallManager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコーダを起動します。トランスコーダは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコーダ制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコーダ デバイスごとに作成されます。各トランスコーダは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコーダ リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコーダを設定するには、次のトピックを参照してください。

- トランスコーダの検索（P.58-2）
- トランスコーダの設定（P.58-4）
- トランスコーダのリセット（P.58-5）
- トランスコーダの削除（P.58-6）
- トランスコーダの設定値（P.58-7）

トランスコーダの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。

（注）　Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1　［メディアリソース］>［トランスコーダ］の順に選択します。

［トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)］ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、トランスコーダを検索します。

ステップ 2　最初の［検索対象 : トランスコーダ、検索条件 :］ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ［名前］
- ［説明］
- ［デバイスプール］

（注）　このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるトランスコーダ リストのソート方法が決まります。たとえば、［デバイスプール］を選択すると、［デバイスプール (Device Pool)］列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の［検索対象 : トランスコーダ、検索条件 :］ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ［が次の文字列で始まる］
- ［が次の文字列を含む］
- ［が次の文字列で終わる］
- ［が次の文字列と等しい］
- ［が空である］
- ［が空ではない］

ステップ 3　必要に応じて適切な検索テキストを指定し、［検索］をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

ヒント　データベースに登録されているトランスコーダをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに［検索］をクリックします。

検出されたトランスコーダのリストが、次の項目別に表示されます。

- トランスコーダのアイコン
- ［名前 (Name)］
- ［説明 (Description)］
- ［デバイスプール (Device Pool)］
- ［ステータス (Status)］
- ［IP アドレス (IP Address)］

（注）　該当するトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにして［**選択項目の削除**］をクリックすると、［トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)］ウィンドウから複数のトランスコーダを削除できます。ウィンドウ内のトランスコーダをすべて削除するには、［**すべてを選択**］をクリックし、［**選択項目の削除**］をクリックします。

ステップ 4　レコードのリストから、検索条件と一致する　トランスコーダのアイコン、トランスコーダ名、説明、または関連するデバイスプールをクリックします。

選択したトランスコーダがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1　［メディアリソース］>［トランスコーダ］の順に選択します。

［トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)］ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　次のいずれかの作業を行います。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます（P.58-2 の「トランスコーダの検索」を参照）。次に、コピーするトランスコーダの横にある［**コピー**］ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、［**新規追加**］ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます（P.58-2 の「トランスコーダの検索」を参照）。次に、ステップ 3 に進みます。

ステップ 3　適切な設定値を入力します（表 58-1 を参照）。

ステップ 4　［保存］をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

追加情報

P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスコーダのリセット

トランスコーダをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1　［メディアリソース］>［トランスコーダ］の順に選択します。

ステップ 2　トランスコーダのリストから、リセットするトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

ステップ 3　［リセット］をクリックします。

［デバイスリセット (Device Reset)］ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4　［リセット］を再度クリックします。

追加情報

P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、［トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)］ウィンドウの［関連リンク］ドロップダウン リスト ボックスから［**依存関係レコード**］を選択し、［**移動**］をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、［依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)］ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。使用されているトランスコーダを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

手順

ステップ 1　P.58-2 の「トランスコーダの検索」の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。

ステップ 2　一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

ステップ 3　［**削除**］をクリックします。

このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4　続行するには、［**OK**］をクリックします。削除操作を取り消すには、［**キャンセル**］をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。

追加情報

P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスコーダの設定値

表 58-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

表 58-1　トランスコーダの設定値

フィールド	説明
［トランスコーダタイプ (Transcoder Type)］	適切なトランスコーダ タイプを選択します。［**Cisco MediaTermination Point Hardware**］、［**Cisco IOS Media Termination Point**］、［**Cisco IOS Enhanced Media Termination Point**］、または［**Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)**］のいずれかを選択してください。 これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「トランスコーダ」を参照してください。
［デバイス名 (Device Name)］	このフィールドは、［Cisco IOS Media Termination Point］または［Cisco IOS Enhanced Media Termination Point］をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドラインインターフェイス（CLI）で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
［トランスコーダ名］	［Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)］のトランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
［説明］	説明（最大 50 文字）を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
［MAC アドレス (MAC Address)］	［Cisco Media Termination Point Hardware］または［Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)］の場合は、MAC アドレス（12 文字）を入力します。
［サブユニット］	［Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)］のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
［デバイスプール (Device Pool)］	デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、［詳細の表示］をクリックします。
［特別なロード情報 (Special Load Information)］	［特別なロード情報 (Special Load Information)］フィールドに特別のロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
［最大容量］	［Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)］のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。

表 58-1　トランスコーダの設定値（続き）

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
（デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド）	［プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)］の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、［**プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)**］見出しの下にある「**?**」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合せください。

関連項目

- トランスコーダの検索（P.58-2）
- トランスコーダの設定（P.58-4）
- トランスコーダのリセット（P.58-5）
- トランスコーダの削除（P.58-6）
- トランスコーダの設定値（P.58-7）
- 会議ブリッジの設定（P.53-1）
- メディア ターミネーション ポイントの設定（P.54-1）
- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「トランスコーダ」
- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「Cisco Unified CallManager の管理ページにおけるトランスコーダのタイプ」